

丹生谷貴志 講演会

戦後日本における生と真理

2011年7月4日 [月] 18:00-

東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボレーションルーム 1

入場無料 | 事前登録不要

講演の後に小林康夫拠点リーダーとの対話を予定しております

講演趣旨から――

本講演では、現在刊行準備中の仕事から、先ず大岡昇平における「敗走」を中心に、「戦後日本における生と真理」について論じる。さらに、これを戦後文学に限るものではなく、人間の《外》として存在する営み全般へと議論を展開し、検討をすることを目指す。

丹生谷貴志 (NIBUYA Takashi)

1954年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科西洋美術史修了。現在、神戸市外国語大学教授。著書に『死者の挨拶で夜がはじまる』、『家事と城砦』（河出書房新社）、『ドゥルーズ・映画・フーコー』、『三島由紀夫とフーコー〈不在〉の思考』（青土社）など。近刊予定に、ジャン・ルイ・シェフェール『映画を見に行く普通の男 映画の夜と戦争』（現代思潮新社、翻訳）、『敗走者たちの生と真理』（青土社、仮題）、などがある。

主催

東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)

The University of Tokyo Center for Philosophy <http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>

University
of Tokyo
Center
for
Philosophy